

## 高月院：松平氏墓所

高月院は松平家の菩提寺であり、一族の死者の葬儀を執り行う役割を担っていました。そのため、初代当主である松平親氏（伝 1394 年没）の時代から徳川幕府の崩壊（1867 年）まで、多大な庇護と援助を受けていました。

松平氏墓所は、高月院の歴代住職の墓の先、境内の奥にある小高い丘の露台にあります。ここにある 3 つの墓碑は、親氏（中央）、その後継者である泰親（右）、そして 5 代目当主である長親の母（左）です。いずれも遺骨を納めたものではなく、供養塔であると考えられています。

松平家が 3 代目当主・信光（1404-1488）の時代に領地を拡大し故郷を離れたため、高月院で葬儀が行われたのは初代と 2 代目だけでした。長親の母の墓は、息子の一人が高月院の住職になった後、ここに移されたとされています。